

「カンキツ改植後の管理対応」

佐賀県果樹試験場 常緑果樹研究担当 専門研究員 夏秋道俊

近年、カンキツにおいては優良品種への更新や基盤整備の推進、老木樹の更新を進めており、今年度も改植を実施された園地も多いと思います。カンキツを含め永年性作物である果樹類は、改植後着果が得られるまでに数年を必要とします。この期間は収益が得られませんので、一年でも早く樹を大きくし、未収益の期間を如何に短くできるかが、経営を考えるうえで重要となります。苗木の定植後はしっかりと管理し、できるだけ早く成園化できるように管理を徹底しましょう。

一、樹体の誘引

改植後はできるだけ早く根を活着させる必要があります。植物の根は樹体を支え、生育に必要な養水分を吸収する重要な役割を果たしていますので、活着が遅れると根が十分に働かず、給水不足や栄養不足となり、生育不良の原因となります。図一に活着の良し悪しとその後の生育の状況を示していますが、活着が不良な樹は樹高の伸びが遅くなっています。

根の活着を早めるためには、まず樹体を固定する必要があります。樹体が風等でぐらつくと根も動いてしまい、活着が遅れてしまいます。支柱が立てられていない園地も見受けられますので、樹体は必ず支柱等でしっかりと固定してください。

二、除草

これから雑草が繁茂するシーズンとなります。ご存知のように養水分を奪い成長しますので、雑草が繁茂した状態では養水分の吸収が低下します。また、樹が雑草に埋もれてしまうと樹体に日が当たらず光合成能力が落ちるとともに、病虫害の発生につながります。雑草管理はしっかりと行ってください。

抑草には抑草シートなどを活用すると効果的です。また、敷きわら等も有効ですが、日数が経過すると徐々に分解され、気づいた時には雑草だらけ、ということもありますので、注意しましょう。

三、土壌管理

土壌の乾燥は苗木の生育にとって大敵です。土壌が過乾燥になると樹体が水分不足となり、発芽や発根がスムーズに行われず、樹冠の拡大が遅れます。土壌乾燥を防止する対策は必ず実施しましょう。敷きわらは土壌乾燥抑制に有効で、来月下旬頃には麦類の収穫も始まりますので、地域内の有効な資材として活用しましょう。また、好天が続く土壌乾燥が進んだ場合は、必ずかん水を実施し、土壌水分を確保してください。梅雨明け後晴天が続くと、葉からの蒸散も多くなり、土壌の乾燥も早くなります。夏季の管理の良しあしがその後の生育に大きく影響しますので、管理を徹底してください。特に一年生の苗木の場合はこまめに観察し、対応が遅れないようにしましょう。

「カンキツ改植後の管理対応」

佐賀県果樹試験場 常緑果樹研究担当 専門研究員 夏秋道俊

四、施肥管理

苗木の施肥管理は肥料切れを起こさないこと、過剰施用により肥料やけを起こさないことが大切です。硫安等の即効性肥料を月に一回、一樹あたり一つかみを施用してください。肥効くん等の肥効調節型肥料を用いると肥料やけを起こす心配がなく、省力化を図ることができます。また、黒ポリなどのマルチ被覆は降雨による肥料の流亡を抑えることができ、抑草にもなりますので、活用を考えてみましょう。

苗木での施肥量については、肥料の第一表に施肥基準を記載していますので、参考にしてください。

また、発生した新梢の充実を図るためには、窒素主体の葉面散布が有効ですので、定期的に行いましょう。防除時に混用するなど、効率的に行ってください

五、病虫害防除

苗木の樹冠拡大を図るためには、新梢の充実を促進することが大切です。今後、夏枝等が発生する時期となりますが、この時期はミカンハモグリガやアゲハなど葉を加害する害虫の被害が多くなりますので、防除を徹底してください。

六、枝梢管理

三月号にも記載されていましたが、樹冠の拡大を早めるにはしっかりした新梢を確保することが大切です。これから夏芽や秋芽が発生しますが、同じ部位から複数の芽が発生した場合は養分が分散しますので、生育が良い新梢を残して芽かきを行い、残った新梢の充実を促進してください。また、すでに実施されていると思いますが、大苗の場合は主枝候補の枝は先端ができるだけ立つように、必ず誘引してください。

七、着果管理

定植二年目以降、果実が着果した場合は、果実に養分をとられ、樹冠の拡大が遅くなります。最近では高品質化のためにヒリュウ台を用いた今村温州や青島温州等の導入が少しずつ増加していますが、わいせい台木であるヒリュウ台を用いた場合はカラタチ台に比べて着果開始後の樹冠の拡大が小さいため、着果させる前に、樹冠をできるだけ大きくする必要があります。着花が多いと樹冠拡大が遅れるため、苗木の時はジベレリンの散布や切り返しせん定を適度に行うなどにより、新梢を多く確保する対策をお願いします。

八、防風・防寒対策

風当りの強い園地や冬季に寒風・低温に遭遇しやすい園地は防風・防寒対策の実施が不可欠です。前述のように強風により樹体がぐらつくと根の活着が悪くなります。また、落葉が多くなると、生育が遅れます。このような園地では、あんどん栽培等の対策が有効ですので、是非実施してください。

「カンキツ改植後の管理対応」

佐賀県果樹試験場 常緑果樹研究担当 専門研究員 夏秋道俊

これから、次第に暑くなりますが、病害虫の発生や土壌の乾燥などが起こりやすい時期となります。この時期の管理により生育に差が出てきますので、しっかりと管理をお願いします。

表 1 苗木・幼木の施肥基準

肥料成分	1年	3年	5年	7年	施肥量の配分
窒素	90	150	180	210	各樹種の施肥時期と配分に準ずる
リン酸	54	90	108	126	
カリ	54	90	108	126	

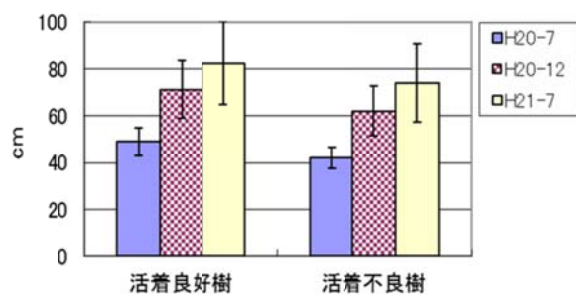


図 1 定植後の活着とその後の樹高
(品種：佐賀果試 34 号)



図 2 あんどん栽培